

平成23年度統計指導者講習会実践事例報告
統計資料を活用した高等学校地理授業の実践
－「世界の人口問題」の学習を事例に－

2011年7月25日
(於 総務省第2庁舎7階大会議室)

泉 貴久

(専修大学松戸高等学校教諭)

(専修大学商学部非常勤講師)

勤務校の紹介

- 創立50年目を迎えた東京近郊（千葉県北西部）に位置する私立大学の付属高校。
- 創立10年目を迎えた中学が併設されている。
- 中高一貫の内進生のコースと高校から入学の外進生のコースとに分かれる。
- 進路目的別にコースが分かれた類型制を採用。
- 併設大学への内部推薦進学者1割、他大学への進学9割という進学校としての側面が強い。
- 併設大学の理念である「社会知性」の開発を軸に教育活動を展開。

社会知性とは？

- 専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力。
- 価値体系が崩れ、倫理観が迷走している今日の社会において、社会知性を開発することは、問題を発見しそれを解決するための能力を身につけるだけではなく、人間性豊かな倫理観のある有為な人材を育成することにつながる（専修大学学長 日高義博氏）。
- 市民性育成を掲げる社会科教育・地理教育の理念と通じるものがある。

発表者の現在の関心事

- 市民性育成のための地理教育の理論（内容論・方法論・教材論）とそれに基づいた授業実践研究。
- 持続発展教育（ESD）の理念をとり入れた地理教育のあり方。
- 思考・判断・表現のプロセスを踏まえ、社会参加を目的に掲げた学習者の「主体的な学び」を重視した授業プロセスのあり方。
- 主体的な学びのプロセスを保障するための学習メソッドのあり方。
- 比較対象としてのイギリスの地理教育研究。
- 付属校としてのメリットを生かした高大連携カリキュラム開発に着手。

高校生による プレゼンテーションの授業

思考・判断・表現のプロセスを踏まえた生徒たちの主体的な学びを社会参加へとどうつなげていくのかが課題である。



教職課程の学生による グループワーク

多様な学習メソッドを駆使しながら授業を構成することのできる教員の養成が急務である。



地理教育における統計資料の位置づけ

- 地理教材を開発するにあたっての重要な要素の一つ。
- 地理授業の中において頻繁に活用。
- 地理教育的な観点から統計資料活用の意義について論じた書物はほとんど見られない。

本報告の目的

- 統計資料を活用することの地理教育的意義について言及する。
- 統計資料を活用した高等学校における地理授業の実践について報告する。
- 授業実践を通じた今後の課題と展望について言及する。

地理授業のねらい

- 学習者が教材を媒介としながら現代世界の動向について多面的な角度から分析・考察すること。
- 世界の諸地域で現実に行っている諸問題に自ら向き合うこと。
- 自分（もしくは身近な地域）と世界とが互いにつながっていることに気づくこと。
- 地球市民的資質を身につけていくこと。
- ねらいを達成するために、学習者が現代世界のリアルな現状をよりの確に把握するべく、単元構成や指導方法、教材開発において教師自身に何らかの工夫が求められる。

地理授業で主に用いられる教材

- 地図（地形図、一般図、主題図、鳥瞰図、古地図、掛地図、電子地図など）
- 地球儀
- 写真（景観写真、人々の生活をとらえた写真、航空写真、衛星画像など）
- 統計資料（グラフ、表など）
- 視聴覚教材（DVD、CD、GISなど）
- 実物教材（あらゆるモノなど）

統計資料の地理教育的意義

- 自然環境、国勢、人口、産業、交通、通信、貿易など諸分野ごとに基本的な数値データが集約。
- 現代世界の動向を読み解くためのリソースとしての位置づけ。
- 数値データをもとに、現代世界の現状について視覚的に把握することを意図してグラフ化したり、地図化したりといった作業学習が、一般的な授業実践で展開。
- 一次資料としての価値が極めて高い。

高校新学習指導要領の特徴

「生きる力」育成のための大きな柱

- 知識・技能の習得
- 思考力・判断力・表現力（探究能力）の育成
- 言語活動の充実

- 習得した知識を探究・論述・討論などの学習活動を通じて活用していく技能（スキル）面の重視。

地理A・Bにおける統計資料の位置づけ

- 地理的な見方や考え方や及び地図の読図や作図、衛星画像や空中写真、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。
 - 教科用図書『地図』を十分に活用するとともに、地図や統計などの地理情報の収集・分析には、情報ネットワークや地理情報システムなどの活用を工夫すること。
- ↓
- 地理情報の媒体としての位置づけ。
 - 収集・分析・考察といった一連の学習プロセスを通じた地理的技能習得のための手段としての位置づけ。
 - 探究・論述・討論活動を通じた学習への意欲・関心・態度を喚起するための手段としての位置づけ。

授業実践 「世界の人口問題」

- 高校2年地理Bの授業で実施。
- テーマ設定の理由



- 環境、食料、資源・エネルギー、紛争、福祉、ジェンダーなどの社会的諸問題の発生要因となるなど密接なかかわりを持っているため。
- 人口問題がこれら諸問題を考えていく際の切り口となることが期待できるため。

学習目標

- ①世界の人口問題に関わる諸事象を地図や統計などの諸資料を分析・考察することを通じて、人口問題そのものを大観的に把握する。
- ②世界の人口問題の現状について先進国と発展途上国とでは抱えている課題が大きく異なっていることに気づく。
- ③世界の人口問題について先進国と発展途上国を事例に学習することで、それぞれの国々が抱えている人口問題とそれに付随して生じる社会的諸問題についての理解を深め、解決への途を模索する。

単元構成（全10時間）

- ①地図や統計から人口に関わる諸事象を読みとる（4時間）
- ②発展途上国における人口問題を考える－パキスタンと中国を事例に－（2時間）
- ③世界の食料問題を考える－シエラレオネとアメリカ合衆国を事例に－（1時間）
- ④先進国における人口問題を考える－スウェーデンと日本を事例に－（2時間）
- ⑤過疎化する島の将来を考える－プランニングを通じた島づくり構想－（1時間）

本発表で対象とする実践

- 地図や統計の分析を学習目標としている「学習単元①」を実践事例としてとりあげる。
- 表題の通り、世界地図、ないしは人口ピラミッド等の統計資料を用いて人口に関わる諸事象を読みとる作業をメインに授業を構成。

授業実践の実際

- ア. 世界の人口分布の特徴
- イ. 世界人口の推移とその背景
- ウ. 人口動態の推移と人口ピラミッドの類型
- エ. 各国における人口ピラミッドからの社会状況の考察
- オ. 人口ピラミッドからみた日本の社会構造の変化
- カ. 世界規模での人口移動の特徴
- キ. 主要国における産業別人口構成の特徴

ア. 世界の人口分布の特徴

【学習のねらい】

- ①気候、地形、産業などの地理的諸条件が人間の居住環境の形成にいかなる影響を与えているのか理解する。

ア. 世界の人口分布の特徴

【学習活動】

- ①世界の人口密度を示す地図より人口密度の高い地域と低い地域をそれぞれ発表する。
- ②人口密度の高い国・低い国の上位5か国を統計資料から探し、地図上で位置を確認する。
- ③各々の地域における地理的特性について地図上での絶対的な位置(緯度、経度、海拔高度など)とのかかわりから推測する。

イ. 世界人口の推移とその背景

【学習のねらい】

- ①1800年～2050年にかけての世界全体及び大陸別人口の推移についての統計資料をグラフ化させることでその特徴について読みとる。
- ②人口爆発を引き起こした理由を科学技術の進歩に伴う医療、保健衛生、食料・栄養事情の改善などとの関わりから把握する。
- ③人口爆発が続くことによって起こり得る社会的諸問題(食料・資源の枯渇や住居の不足など)について考察する。

イ. 世界人口の推移とその背景

【学習活動】

- ①1800年～2050年にかけての世界全体及び大陸別人口の推移についての統計資料をグラフ化し、その特徴について読みとる。

ウ. 人口動態の推移と人口ピラミッドの類型

【学習のねらい】

- ①人口動態の変化は社会構造の変化によって生じることを理解する。
- ②それらの変化に伴い、人口ピラミッドも変化することを理解する。

ウ. 人口動態の推移と人口ピラミッドの類型

【学習活動】

- ①人口動態の推移についてグラフをもとにⅠ～Ⅳの各段階の人口動態の特徴について発表する。
- ②各段階に当てはまる人口ピラミッドの類型（富士山型、釣鐘型、つぼ型）を推測する。

エ. 各国における人口ピラミッドからの社会状況の考察

【学習のねらい】

- ①各国の経済状況、社会政策、政治体制、文化的・宗教的背景、男女間・階層間格差などによって年齢別（あるいは男女間の）人口構成に大きな違いがみられることを理解する。
- ②違いが生じた理由、各々の国々における社会構造の特徴、生じていると思われる社会的諸問題を推測する。

エ. 各国における人口ピラミッドからの社会状況の考察

【学習活動】

- ① スウェーデン、オーストラリア、ブラジル、中国、インド、エチオピア各国の年齢別人口構成をもとに人口ピラミッドを作成する。
- ② 各国の人口ピラミッドにおける若年人口、生産年齢人口、老年人口それぞれの割合を色分けする。
- ③ それぞれのピラミッドを比較し、そこからどのような特徴が読みとれるのかを発表する。

オ. 人口ピラミッドからみた日本の社会構造の変化

【学習のねらい】

- ①人口ピラミッドの変化をとらえることで、過去70年間における日本社会の急激な社会構造の変化（医療・衛生面の整備、平均寿命の延び、高度経済成長、少子高齢化など）に着目する。
- ②社会構造の変化により現在生じている社会的諸問題（高齢者年金・医療・福祉制度の歪み、東京一極集中と地方の過疎化など）に着目する。

オ. 人口ピラミッドからみた日本の社会構造の変化

【学習活動】

- ①日本の年齢別人口構成について示された統計資料をもとに、2007年現在における日本の人口ピラミッドを作成する。
- ②出来上がった人口ピラミッドを1930年と1960年におけるそれと比較してどのようなことがわかるのかを発表する。

カ. 世界規模での人口移動の特徴

【学習のねらい】

- ①世界規模での人口移動の特徴について在日外国人とアメリカへの移民を事例に概観する。
- ②日米両国に居住する外国人の出身国の推移とその特徴について把握する。
- ③そのような特徴をもたらした要因について当時の国際社会の動向との関わりから考察する。

カ. 世界規模での人口移動の特徴

【学習活動】

- ①在日外国人登録者数と出身国の推移について示された統計資料とアメリカへの移民の出身国の推移について示された統計資料を生徒たちを分析する。
- ②日米両国に居住する外国人の出身国の推移とその特徴について把握する。
- ③そのような特徴をもたらした要因について当時の国際社会の動向との関わりから考察する。

キ. 主要国における産業別人口構成の特徴

【学習のねらい】

- ①戦後日本の高度経済成長に伴う産業の急速な高度化と、その結果として、短期間で日本の産業構造が大きく変化したことを理解する。
- ②経済発展の度合いの異なる5か国の第一次・第二次・第三次産業の比率を垣間見ることによって各国の現在の主要産業について把握する。
- ③各国の産業構造の特徴について地域性を踏まえながら推測する。

キ. 主要国における産業別人口構成の特徴

【学習活動】

- ①日本の第一次・第二次・第三次の産業別人口構成の推移について示された統計資料をもとに、1953年～2004年におけるほぼ10年ごとの産業別人口割合を三角ダイヤグラムに記入する。
- ②イギリス、韓国、ベラルーシ、フィリピン、エチオピアの5か国における産業別人口構成について示された統計資料をもとに、各国の産業別人口割合を三角ダイヤグラムに記入する。

授業の総括

【生徒たちの感想文から】

- ①統計をはじめとする諸資料の分析を通じて世界各国における人口問題の一端とそれに伴って生じる社会的諸問題の現状について把握することができた。
- ②本実践のねらいはおおかた達成された。

今後の課題と展望—むすびにかえて—

- 地理授業の最終目標が地球市民的資質の育成にあるのなら、問題の発見とその現状把握でとどまらせるのではなく、学習者自らが問題の背景・要因を広い視野からの確にとらえ、問題解決へ向けての糸口を見出せるような授業展開への工夫の必要性。
- その意味において、本発表は、世界の人口問題解決へ向けての前段階として位置づけられる。
- 統計資料はあくまでも社会的諸問題の現状を把握するための手段であって、それは問題解決へとリンクしていくものでなければならない



ご清聴、
ありがとうございました。
た。